

常滑市シティプロモーションプラン

2018～2020 年度



2018 年 3 月

常滑市

ごあいさつ

常滑市は、愛知県知多半島西海岸の中央に位置し、千年の歴史と伝統を誇る常滑焼の産地であり、2005年2月に開港した中部国際空港セントレアが立地する人口5万9千人のまちです。空港が開港して13年が経過し、交通利便性の向上を始め人口増加や企業立地、そして大規模商業施設等の開業による賑わいなど、“目的地（デスティネーション）にされるまち”へと変わりつつあります。



全国的に少子・高齢化や人口減少が進行する中、本市におきましては、こうした良い流れをさらに加速させるまちづくりが重要になります。

そこで、全国・世界から「ひと」を呼び込み、「しごと」をつくり、住みやすい「まち」を、そして“選ばれるまち”を目指して、また、市民の皆さまには「常滑一番。」と実感していただけるよう、地域を持続的に発展させ、都市の魅力を市内外に発信するシティプロモーションに取り組んでいくこととします。

なお、本プランの策定に当たっては、若手の市職員で“地方創生庁内推進チーム”を立ち上げ、検討を進めてまいりました。

皆さまの一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2018年3月

常滑市長 片岡 憲彦

目 次

第1章 まちの特色	1
1 豊富な地域資源	1
2 まちづくり計画	2
3 まちの人口	2
4 企業立地	4
5 大規模プロジェクト	4
コラム「LOVE TOKO」の紹介	6
第2章 基本的な考え方	7
1 計画の期間	7
2 目的	7
3 メインターゲット	8
4 メインテーマ	8
5 取組方針と視点	9
第3章 プロジェクト	10
第4章 推進にあたって	18
参考資料	

【愛知県常滑市】

人口/58,902人（2018年2月末日現在）

世帯/24,034世帯（2018年2月末日現在）

面積/55.90km²

北緯/34度53分 東経/136度50分

東西/6km 南北/15km



第1章 まちの特色

1 豊富な地域資源

本市は、温暖な気候と豊富な農水産物、温かな人柄の住民が生き生きと暮らすまちで、春の山車まつり、海のレジャー、冬には海苔養殖が盛んに行われています。2017年4月には日本六古窯の一つとして常滑焼が「日本遺産※1」に認定され、市街地にはその歴史が感じられる「やきもの散歩道」があり、また、セントレアや中部臨空都市※2では、全国・世界の人々で賑わいを見せています。

こうして本市は、「焼き物と海と空のまち」、「懐かしさと新しさが同居したユニークなまち」そして「空港により交流・出会い、移動・滞在がしやすいまち」になりました。

【図表1：常滑市の地域資源】

人	文化	自然
【懐かしさ】 温かい人柄、地域におけるつながりの強さ、元気な高齢者、名誉市民、陶祖、人間国宝	【懐かしさ】 常滑焼、やきもの散歩道、招き猫、醸造業（日本酒）、大野の街並み、春の祭礼、山車まつり、鈴溪義塾、押し寿司	【懐かしさ】 伊勢湾の景観と夕日、海苔、海水浴、潮干狩り、海釣り、マリンスポーツ、豊富な農水産物、温暖な気候
【新しさ】 空港関連従業員等の転入者（若者やその家族）、全国・世界からの来訪者（観光客、ビジネス客）	【新しさ】 セントレア、中部臨空都市（大規模商業施設、ホテル、結婚式場、マリーナ等）	【新しさ】 りんくうビーチ、里山整備、アイアンマンレース



常滑焼の急須



市キャラクター「トコタン」



ポストの上の「猫の焼き物」

※1「日本遺産（Japan Heritage）」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するもの。日本六古窯は、2017年4月に日本遺産に認定を受けた。

※2「中部臨空都市」とは、空港島のうち東側地域（107ha）と、その対岸部（123ha）を合わせた地域のこと。

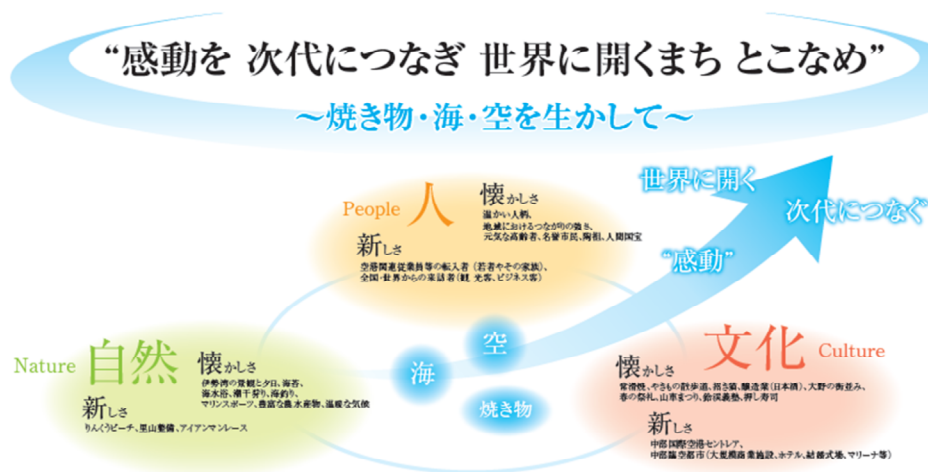
2 まちづくり計画

第5次常滑市総合計画（2016～2024年度）では、市民、事業者及び行政が共通のイメージを持って目指すまちの姿「将来の都市像」について、

- ・ まちの魅力である「人・文化・自然」を守り育てながら、まちへの愛着や誇りを育み、次代につないでいくこと
- ・ まちの魅力を創造し、「感動」を全国・世界に発信し、来訪者の増加により地域経済を活性化させ、まちの認知度を高めながら企業立地や人口増加を促進していくこと

とし、「感動を 次代につなぎ 世界に開くまち とこなめ ～焼き物・海・空を生かして～」と定めています。

○将来の都市像のイメージ



3 まちの人口

人口には、まちに住む「定住人口」、まちへ通勤・通学する「流入人口」、観光客やビジネス客等まちを訪れる「交流人口」があります。本市の特色としては、定住人口と流入人口の中に空港関連の従業員を挙げることができます。

（定住人口）

本市の人口は、今から40年前（1978年）の55,707人をピークに減少を続けてきましたが、空港開港を契機として増加に転じ、2018年2月末日現在58,902人となっています。特に開港5年間の社会増が顕著であり、若い世代や子育て世代（20代から30代）が多く転入しました。

最近では、転入・転出者数ともに落ち着き、また、転入したものの数年を経て転出するケースが見られます。

なお、2014年7月時点での空港島の空港関連従業員数は9,617人で、そのうち市内居住者は約3,600人（37%）となっています。

(流入人口)

国勢調査の結果から、市内への通勤者数は、2000 年の 7,970 人から 2015 年の 14,277 人へと 15 年間で約 1.8 倍増加し、特に名古屋市からは同年比で 623 人から 2,238 人へと約 3.6 倍増加しています。昼間人口指数については、同年比で 93.6%から 101.9%になっており、市内への通勤者数が増えたことで夜間人口より昼間人口が多くなっています。

(交流人口)

・空港来訪者数の推移

セントレアの旅客数は 2011 年度以降増加しており、2017 年度は 1,100 万人を超える見込みです。また、2017 年度に国際線を利用した外国人旅客数は、各月(4～11 月)において対前年度比 100%を超えており、過去最高となる見込みです。



セントレア

・観光客数の推移

2012 年 12 月に商業施設(めんたいパークとこなめ)が出店したことから、2013 年度には約 356 万人が常滑市を訪れ、当時の観光振興計画の目標値である 150 万人を大きく上回りました。

また、年間を通して各種イベントも増え、それにあわせて交流人口も増加しています。

(2017 年のイベント例)

酒蔵の一般開放(2 月)、ねこフェスタ 2017(2 月)、春の祭礼(3～5 月)、アイアンマン 70.3 セントレア知多半島ジャパン(6 月)、セントレア盆踊り(7 月)、常滑納涼花火大会(8 月)、りんくう常夏フェスティバル(8 月)、セラモール夏祭り(8 月)、オープンウォータースイミング大会(9 月)、とこなめ焼招き猫祭り(9 月)、常滑お笑い EXPO2017 in 知多半島(9 月)、常滑焼まつり(10 月)、陶と灯の日(10 月)、常滑フィールド・トリップ(10 月) など



常滑焼まつり



アイアンマン 70.3 セントレア知多半島ジャパン

4 企業立地

2005年2月のセントレアの開港にあわせて、空港島へ物流企業やホテル等が立地し、また、空港対岸部のりんくう町に大規模商業施設等が進出し、現在では、外資系の自動車部品製造工場の建設も進められています。

また、中部国際空港(株)とイオンモール(株)が中心となって2015年11月から進めている「CHITA CAT プロジェクト※」により、空港とイオンモール常滑間を結ぶ無料シャトルバスの運行やインバウンド(訪日外国人旅行者)向けのモニターツアー (OMOTENASHI TOUR)、各種イベントが開催され、好評を得ています。

5 大規模プロジェクト

セントレアでは、インバウンドの増加や格安航空会社LCCの就航便数の増加、そして、第2の開港期といわれるように、空港島を中心にして愛知県や中部国際空港(株)等による各種施設の建設や、愛知県国際展示場での国際的なイベント開催計画など、大規模プロジェクトが進められています。2017年10月には、初めて本市に本社を置くエアライン、エアアジア・ジャパン(株)が中部～札幌間に就航しました。

また、内陸部においては、セントレアと新東名高速道路(伊勢湾岸自動車道)を直結する西知多道路の整備が進められています。

(主な施設等)

- | | |
|--------|--|
| 2018年 | 東横イン新棟開業、FLIGHT OF DREAMS (フライト・オブ・ドリームズ) 開業、セントレアホテル新棟開業、フォーポイント バイシェラトン名古屋開業 |
| 2019年 | 格安航空会社LCC向けターミナル竣工、愛知県国際展示場開業 |
| 2020年～ | 西知多道路開通(2027)、リニア中央新幹線開通(2027)、名古屋駅スーパーターミナル化(2029) |

【施設のイメージ図】



FLIGHT OF DREAMS



愛知県国際展示場



格安航空会社LCC向けターミナル



リニア中央新幹線

(主なイベントの開催計画)

- 2019 年 技能五輪全国大会
- 2020 年 技能五輪全国大会・全国アビリンピック、ワールド・ロボット・サミット
(東京オリンピック・パラリンピック)
- 2021 年～ 夏季アジア競技大会 (2026)

【各イベントのロゴマーク等】



技能五輪全国大会・全国アビリンピック



ワールド・ロボット・サミット



夏季アジア競技大会

※「CHITA CAT プロジェクト」とは、知多半島の地域活性化を目的に 2015 年 11 月に発足したイオンモール(株)と中部国際空港(株)と知多半島・常滑地域の趣旨に賛同する自治体、企業、団体等との共同プロジェクト。CHITA CAT プロジェクトという名称は、「Centrair」、「AEONMALL」及び「TOKONAME」それぞれの頭文字と、常滑市の名産「招き猫」から「CAT」と命名されたもの。プロジェクトシンボルは招き猫に由来するデザイン。

「LOVE TOKO」の紹介

シティプロモーションを進めるにあたり、ターゲットや広く一般の方に分かりやすく親しみがわき、興味や関心を持ってもらうため、2016 年度に常滑市のシティプロモーションのコンセプトとして設定しました。

「常滑」を「愛する」人が集う“常滑ファンづくり”の名称として、LOVE と TOKONAME を組み合わせ、また、セントレアの立地都市、全国・世界の人々を意識して、
「LOVE TOKO(ラブトコ)」とします。

常滑のシティプロモーション = LOVE TOKO

【ロゴマーク】

全国・世界から本市への来訪意欲を喚起し、まちのイメージを身近に感じてもらうことが重要になります。

常滑といえば「招き猫のまち」。常滑系招き猫（二頭身、丸い体型、たれ目、小判を抱える）は、集客・幸運を招く縁起いい置物として全国に普及しています。

全国的な猫ブームにあやかり、とこなめ招き猫通りの見守り猫「とこにゃん」をモチーフにしたロゴマークを設定しました。



イメージカラーは、特に若い女性や小中学生にアピールできるようにピンクにしました。

常滑を愛する人、全てが招き猫になって、“常滑に人を招き、幸せになってもらおう！”との思いを込めています。また、市民の皆さんが常滑をアピールするという、内側からの動きを喚起する意味も込めています。



イオンモール常滑の常滑系招き猫「おたふく」



見守り猫「とこにゃん」

第2章 基本的な考え方

1 計画の期間

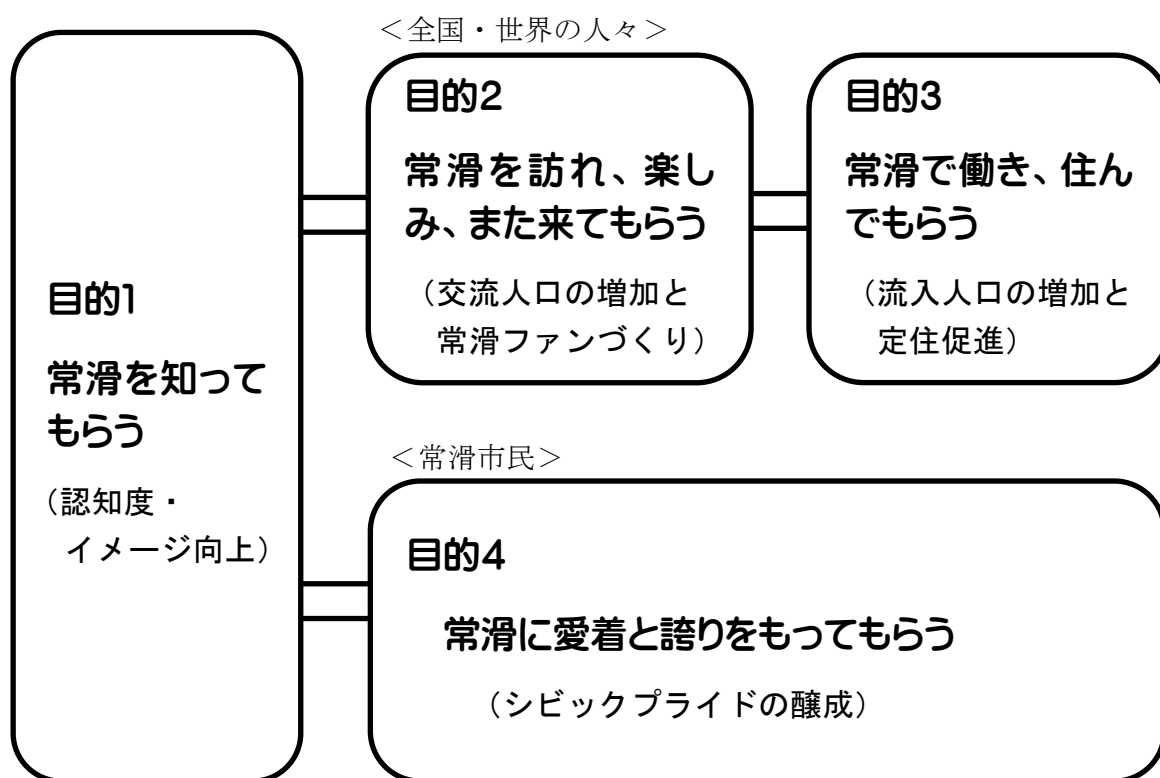
2018～2020 年度（3 年間）

シティプロモーションの成果を得るためには、長期的・継続的な取組が必要になります。本プランは、市にとって初めてのものであるため、第5次常滑市総合計画の前期基本計画が満了する2020年度までとし、2021年度以降については、改めて見直します。

2 目的

シティプロモーションとは、一般的に「地域資源を磨き上げ、その魅力を内外に発信し、自らのまちの知名度や好感度を上げ、地域そのものを全国・世界に売り込むことであり、ヒト・モノ・カネを呼び込み、地域経済の活性化を図る活動」といわれています。

本市においては、以下の4つをシティプロモーションの目的とします。



3 メインターゲット

目的達成のため、メインとなるターゲットを定めます。また、それ以外にも広く対象にして各プロジェクトを進めます。

若い女性

「SNS※」「旅行」「美味しい」「ステキ」「カワイイ」などの項目に興味を示す傾向が高く、市の魅力を全国に伝えるインフルエンサー（影響力のある人材）としての効果が期待できる大学生から30代女性。

働く若い世代

空港関連従業員を始めとする就職や転勤により市内に転入した若者や市外から通勤している若者。特に、結婚や定住先を求めている20代から30代の層。

市内の小中学生

義務教育の時期であり、常滑市民としてしっかりとまちの魅力を認識し、次代へつなぐことが期待できる層。

4 メインテーマ

本市の強みを最大限に発揮するため、3つのメインテーマを定めて重点的に取り組みます。

招き猫

常滑といえば「招き猫」のまち。全国に普及している「常滑系の招き猫」は、集客・幸運を招く縁起のいい置物。招き猫を活用してプロモーションします。

常滑焼

千年の歴史と伝統を誇る「常滑焼」。日本遺産に「日本六古窯（常滑焼、越前焼、瀬戸焼、信楽焼、丹波焼、備前焼）」が認定。常滑焼を活用してプロモーションします。

セントレア

常滑は「セントレア」の立地都市。空港や周辺地域では都市機能の集積や経済活動が活発化。セントレアを活用してプロモーションします。

※「SNS」とは、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service）の略語であり、インターネット技術を利用した人と人のつながりを促進・サポートする仕組みのこと。

5 取組方針と視点

目的達成に向けて、以下の取組方針により各プロジェクトに取り組みます。

方針「市民と協働して地域資源を最大限に活用します！」

県や関係市町と広く連携しながら、市民（特に小中学生）を始め企業や各種団体と共に地域資源を磨き、最大限に活用します。

方針「セントレア・中部臨空都市への来訪者を市街地へ誘導します！」

セントレアや中部臨空都市での賑わいを市全域に誘導します。

方針「マスコミやICTを最大限に活用します！」

全国・世界に向けて常滑の魅力を拡散するために、テレビ局や新聞など報道機関を始めフェイスブックやインスタグラム等のSNSを活用します。

方針「セントレアの立地都市として、その魅力を最大限に発揮します！」

セントレアが第2の開港期といわれる中、県等関係機関と連携してMICE※誘致など、その魅力を最大限に発揮します。

また、各プロジェクトの実施にあたっては、最小の経費で最大の効果が得られるよう、4つの視点により進めます。

[4つの視点]



※「MICE」とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字をとったものであり、これら全ての総称

第3章 プロジェクト

シティプロモーションの一環として2016年度から既に取り組んでいる事業等も含め、以下の7つのプロジェクトに取り組みます。

1 常滑ファンを増やす！「LOVE TOKO」推進プロジェクト

概要	全国・世界の人々に常滑を知ってもらい、また、セントレアや中部臨空都市と市街地との双方向の交流促進を図るため、LOVE TOKO ホームページやカード、ノベルティ等を効果的に活用します。
取組内容	・ LOVE TOKO 専用ホームページの運用（2016～） ・ LOVE TOKO 名刺の作成と配布の促進（2016～） ・ LOVE TOKO カード、ノベルティの制作と更新、参加協力店の加入促進(2016～) ・ LOVE TOKO 応援グッズの制作（2017） ・ とこなめPR冊子の制作（2017）



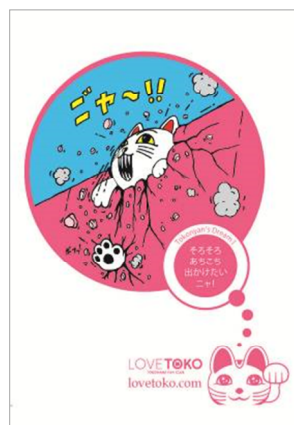
LOVE TOKO カード(表)



LOVE TOKO カード(裏)



協力店ステッカー



ノベルティ第1弾「クリアファイル」

2 やきもの散歩道「空き家活用」プロジェクト

概要	やきもの散歩道への交流・定住促進を図るため、来訪者へのおもてなしを充実し、また、空き家の所有者と入居希望者のマッチング、空き家活用事例の紹介を進めます。
取組内容	○土管坂休憩所（やきもの散歩道の土管坂北側にある休憩施設） ・外観、物販・休憩スペース等リフォーム（2016） ・世界一のトイレプロジェクト※（2017） ・おもてなしカフェ（2017～） ・トライアル出店者の募集（2017～） ○やきもの散歩道Aコース内 ・空き家の活用（2017～）

※「世界一のトイレプロジェクト」とは、土管坂休憩所にある蔵において、市内の3つの衛生陶器メーカー（㈱LIXIL、TOTO㈱、ジャニス工業㈱）の製品を一堂に集め紹介するもの。

【土管坂休憩所のレイアウト】



3 常滑といえば「招き猫のまちだよ！」プロジェクト

概要	“常滑といえば招き猫”というイメージを浸透・定着させるとともに、常滑のブランドとしての認知度を高めるため、児童・生徒や学生、各種団体、事業者等と協働して「猫」をテーマにした取組を進めます。
取組内容	・ 「とこにゃんの夢」※図案募集と商品化（2017～） ・ トコタン婚姻届の制作（2018） ・ 招き猫まつりなど猫関連イベントの開催（2016～） ・ トコタン8（エイト）※の活用（2016～）

※「とこにゃんの夢」とは、体が壁の中にあることから動くことができない「とこにゃん」が、夢の中で色々なところへ旅行したり、遊んだりすること



とこなめ見守り猫「とこにゃん」

※「トコタン8（エイト）」とは、常滑市の公式キャラクター「トコタン」の仲間となって、常滑市のPRに一役買ってくれる8匹の猫たちのこと



トコタン8（エイト）認定・結団式

4 常滑のステキ！「五感刺激」プロジェクト

概要	“友達に紹介したいまち”“何度でも訪れたいまち”を目指して、常滑のステキ（ヒト・コト・モノ）を感じてもらうための取組を進めます。
取組内容	（ヒト） ・鈴溪義塾※や常滑焼の近代名工等の紹介（2016～） ・全国世界規模の文化・競技大会等受賞者の紹介（2017～） ・クリエイターの集うまちの発信（2018～） （常滑フィールド・トリップ、常滑クラフトフェスタなど） （コト） ・常滑市内を巡る観光ルートの設定（2018） ・とこなめ陶の森を活用した常滑焼の紹介（2018～） （モノ） ・春の祭礼や常滑焼まつり、農業まつり、酒蔵開放等の紹介（2016～） ・アイアンマンレースなど海や空を活かしたイベント紹介（2016～） ・（仮称）とこなめ山車まつり 2019 の開催（2019） ・飲食店での常滑焼の器※利用促進（2017、2018） ・特産品を生かしたお土産や料理の研究、発信（2017～） ・陶磁器会館のリニューアル（2017）



鈴溪資料館（小鈴谷小学校内）

※「鈴溪義塾」は、明治の中頃に小鈴谷地区に創設された現代の小学校高学年から中学校低学年の少年少女の教育の場。卒業生の中には、トヨタ中興の祖・石田退三、敷島製パンの創業者・盛田善平、名古屋帝国大学の設置に尽力した文部事務次官・伊東延吉、標準語の父・石黒魯平、戦艦大和の第四代艦長・森下信衛、多産卵鶏の榎本誠、海軍中将・古川四郎、東北大学助教授・天木順吉など各界で活躍した人を輩出しました。なお、小鈴谷小学校内には、当時の資料を展示する鈴溪資料館があります。

※本市では、常滑焼および地酒の普及を図るため、2013年9月に「常滑焼の器に注いだ地酒による乾杯を推進する条例」を制定しました。



「常滑焼の器に注いだ地酒による乾杯を推進する条例」啓発ポスター

5 みんなで知ろう！常滑の「魅力再発見」プロジェクト

概要	飲食や商品、魅力的なスポット、常滑での体験談など、常滑ならではの知られざる魅力を再発見し、効果的に発信するため、学生や外国人の視点から魅力とを感じるモノを発見したり、紹介してもらいます。
取組内容	・ 外国人による常滑魅力発見（2018） ・ 学生企画の人気スポット紹介コンテスト（2018） ・ 学生企画の常滑スイーツ特集（2018） ・ 地域のお宝・体験談の紹介（2018）



常滑を観光する外国人



県内有数の生産量を誇る
イチジクと海苔



竜の子街道プロジェクトにて、名古屋文化短期大学の学生が考案したメニュー

（上）澤田酒造（株）の酒粕を使用した白玉団子

（右）盛田（株）の味噌を使用したマシュマロサブレ



6 ドンドン魅せます！「露出度アップ」プロジェクト

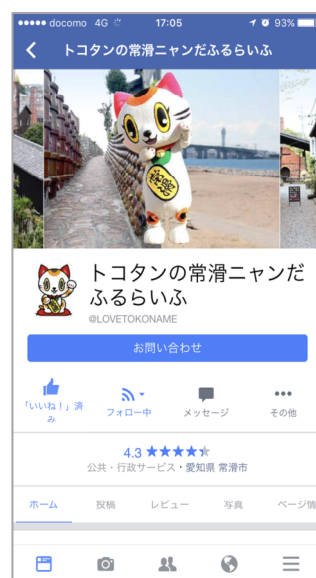
概要	全国・世界に向けて常滑の露出度アップを図るため、テレビ局や新聞社など報道機関と連携し、また、I C T（情報通信技術）を積極的に活用していきます。
取組内容	・ とこなめ P R 動画の制作（2017） ・ 映画やドラマのロケーション撮影の誘致（2016～） ・ テレビやラジオ番組の制作支援（2017～） ・ トコタンの常滑「ヒト・コト・モノ」の紹介（2017～） （フェイスブックページ「トコタンの常滑ニャンだふるらいふ」、動画「トコタンの散歩」）



常滑お笑いEXPO2017 in 知多半島



常滑で撮影された映画「いつまた、君と〜何日君再来〜」



フェイスブックページ「トコタンの常滑ニャンだふるらいふ」

7 国際空港を活かそう！「世界に開く」プロジェクト

概要	全国・世界の人々に常滑を広く知ってもらい楽しんでもらうため、中部国際空港(株)やエアライン、ホテル等とともに様々な連携した事業に取り組みます。
取組内容	・小学生親子空港見学ツアー ・エアライン小学校特別授業（2016～） ・エアラインとの連携（機内誌、機内映像、グッズ等の販売）（2017～） ・ホテルとの連携（雑誌への掲載、飲食店・土産の紹介）（2018～） ・常滑焼まつり等の市内イベントへのブース出展 ・CHITA CATプロジェクトの推進（2016～） ・海外でのプロモーション活動（2016～）



セントレアを離陸する航空機
（画像提供：エアアジア・ジャパン(株)）

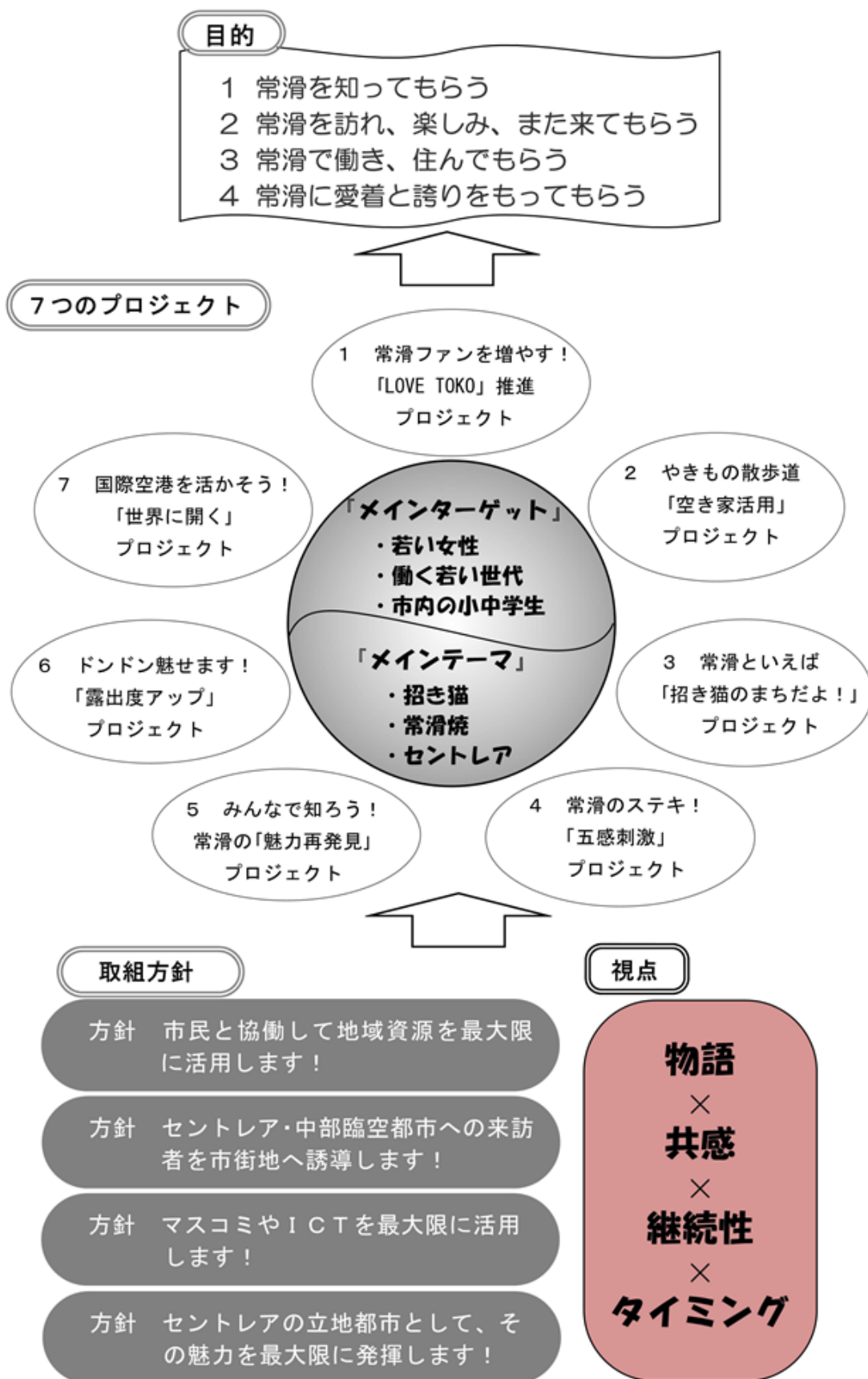


CHITA CAT プロジェクトシンボル



エアライン小学校特別授業

【常滑市シティプロモーションのイメージ】



第4章 推進にあたって

本プランの推進にあたっては、関係者の理解と協力のもと、地域を挙げた取組が必要になります。また、7つのプロジェクトを着実に推進していくためには、実施主体となる行政始め市民（特に次世代を担う層）や各種団体、事業者等が連携を強化していくことが重要になります。

なお、本プランの評価については、シティプロモーションの取組が長期的、継続的なものであり、明確な評価結果が得られにくいことから、2ページ「3 まちの人口（定住人口・交流人口）」を目安として行います。

また、7つのプロジェクトに記載のない事業であっても、本プランの「基本的な考え方」に沿って柔軟に対応し、実施していきます。

■策定に係る経過等

1 市議会

日 付	回 数	内 容
2018 年 1 月 25 日	第 1 回	常滑市シティプロモーションプラン(案)について

2 市民参加

(1) 常滑市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

・会議の構成：産学金労言等の各種団体から推薦された委員 16 人

日 付	回 数	内 容
2017 年 11 月 28 日	第 1 回	常滑市シティプロモーションプラン(素案)について

(敬称略・50 音順)

役職	所 属	氏 名
会 長	知多半島ケーブルネットワーク(株)	富田 博夫
委 員	社会福祉法人 知多学園	磯部 栄
	中部国際空港株式会社	渡辺 吉章
	常滑商工会議所 副会頭	伊奈 憲正
	常滑商工会議所 観光振興委員会	稲葉 憲辰
	日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会	片山 雄介
	とこなめ焼協同組合	鯉江 優次
	愛知淑徳大学	坂倉 守
	あいち知多農業協同組合	永田 栄司
	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	永柳 宏
	中部臨空都市まちづくり協議会	坂野 豊和
	常滑陶磁器卸商業協同組合	平野 朋幸
	常滑市水産振興会	平野 正樹
	常滑市観光協会	森田 仁志
	常滑市金融協会	松江 崇晃
	常滑市社会福祉協議会	山下 圭一

(2) パブリックコメント

- ・募集期間：2018 年 1 月 26 日から 2 月 23 日
- ・市民周知：市ホームページ及び広報とこなめ 2 月号に掲載
- ・資料閲覧：市ホームページ、市役所等公共施設での閲覧
- ・提出方法：郵送、FAX、メールまたは持参
- ・意見総数：1 名（1 件）
- ・結果周知：意見に対する市の考え方について、市ホームページに掲載。

3 庁内における検討

(1) 常滑市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部

日 付	回 数	内 容
2017 年 12 月 12 日	第 1 回	常滑市シティプロモーションプラン(素案)について
2017 年 12 月 26 日	第 2 回	常滑市シティプロモーションプラン(案)について

役 職	職 名	氏 名
本部長	市長	片岡 憲彦
副本部長	副市長	山田 朝夫
本部員	教育長	加藤 宣和
	モーターボート競走事業管理者	山口 学
	総務部長	石井 隆光
	企画部長	榊原 進
	福祉部長	竹内 洋一
	環境経済部長	澤田 忠明
	建設部長	谷川 治
	ボートレース事業局次長	宮島 基弘
	市民病院事務局長	山本 秀明
	消防長	山本 和彦
	教育部長	山崎 巖生
	議会事務局長	岸田 耕平

(2) 常滑市地方創生庁内推進チーム

日 付	回 数	内 容
2017 年 7 月 20 日	第 1 回	シティプロモーションにおける市の“強み”“弱み”の抽出・整理
8 月 3 日	第 2 回	シティプロモーションにおける目的・ターゲットの検討
8 月 23 日	第 3 回	シティプロモーションにおける具体的取組の検討
10 月 5 日	第 4 回	シティプロモーションプラン(たたき台)について
10 月 20 日	第 5 回	〃
11 月 2 日	第 6 回	〃
11 月 7 日	第 7 回	〃
11 月 8 日	第 8 回	〃

所 属		職 名	氏 名
総務部	総務課	主事	近藤 貴裕
	市民窓口課	主事	大岡 由季
	税務課	主事	永田 圭
	安全協働課	主事	清水 実菜子
企画部	秘書広報課	課長	水野 善文
		主事	片倉 仁
	職員課	主事	山下 菜実
福祉部	健康推進課	保健師	新美 奈津美
	福祉課	主事	早川 史織
	こども課	主任	八木 一志
	保険年金課	主事	山元 麻実
環境経済部	商工観光課	課長	久田 篤史
		主事	升本 琢也
	企業立地推進室	主査	澤田 知宏
	農業水産課	主査	江口 智広
	生活環境課	主任	江坂 大輔
建設部	都市計画課	技師	岸田 直樹
市民病院	管理課	主任	村瀬 亜季
教育委員会	学校教育課	主事	竹内 華怜
	生涯学習スポーツ課	主事	永井 秀俊

【事務局：企画課】

課長	齋田 充弘
主任主査	鯉江 剛資
主任	間瀬 啓太
主事	竹内 一将

常滑市シティプロモーションプラン

2018 年 3 月

編集：常滑市企画部企画課

〒479 - 8610 愛知県常滑市新開町 4 - 1

TEL : 0569-35-5111 FAX : 0569-35-4329

URL : <http://www.city.tokoname.aichi.jp/>

E-mail : kikaku@city.tokoname.lg.jp